

先日は手賀沼定例探鳥会にご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録でレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回12月の「てがたん」は12月8日(土)で「色々な木の実の形と種類」がテーマです。

ご都合のつく方は、ぜひご参加ください。

*市民スタッフの方へ 次回のとがたん下見&打ち合わせは12月1日(土)です。よろしくお願いいたします。

11月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→フジ棚→手賀沼遊歩道→滝下広場→手賀沼遊歩増→漁協前
- 観察日時/天気 2012年11月10日(土) 10:00~12:00 / 晴れ
- 参加人数 26名(一般17人、子ども9人)
- 市民スタッフ 12名(伊東茂子、岡廣志、蒲田知子、木村稔、窪田憲史、玄地昭八、須貝基康、竹本周平、古川克彌、水上香苗、松村定雄、湯瀬一栄)
- 鳥博職員 2名(斉藤安行、村松和行)

観察記録 - 11月てがたんで観察した生き物リスト-

【鳥類】

カイツブリ科：カンムリカイツブリ、カイツブリ/ウ科：カワウ/サギ科：ダイサギ、コサギ、アオサギ/カモ科：カルガモ、コガモ、オナガガモ、コブハクチョウ/タカ科：ミサゴ/キジ科：キジ/クイナ科：オオバン、バン/カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメ/ハト科：キジバト/カワセミ科：カワセミ/キツツキ科：コゲラ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/モズ科：モズ/ヒタキ科：ジョウビタキ/ツグミ科：ツグミ/シジュウカラ科：シジュウカラ/メジロ科：メジロ/ホオジロ科：ホオジロ、アオジ/アトリ科：カワラヒワ、マヒワ/ハタオリドリ科：スズメ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/外来種や家禽：バリケン、アヒル、ドバト

【両生類】 アマガエル科：ニホンアマガエル

【爬虫類】 ナミヘビ科：アオダイショウ(幼蛇)

【昆虫・クモ】

バッタの仲間：シヨウリョウバッタ、コバネイナゴ、オンブバッタ、エンマコオロギ(声)/カメムシの仲間：ヨコツナサシガメ/チョウ・ガの仲間：モンシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウ、ヤマトシジミ、キタテハ/クモの仲間：ナガコガネグモ、ジョロウグモ

【花】

キク科：ハハコグサ、センダングサ(種不明)、ノボロギク、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、アレチノギク、ハルシオン、ハキダメギク/カタバミ科：カタバミ/ツユクサ科：ツユクサ/タデ科：ミソソバ、イヌタデ、アキノウナギツカミ/キツネノマゴ科：キツネノマゴ/シソ科：ホトケノザ/アカバナ科：アカバナユウゲショウ/バラ科：'十月桜'(栽培品種)

11月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「鳥の渡りとモズの高鳴き」でした。
モズの高鳴きを聞くことはできませんでしたが、カンムリカイツブリ、オナガガモ、マヒワなど冬鳥の姿が確認できました。



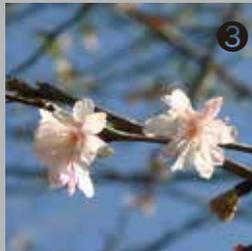
今月の案内人：木村稔さん、須貝基康さん



1 上空を帆翔するミサゴ



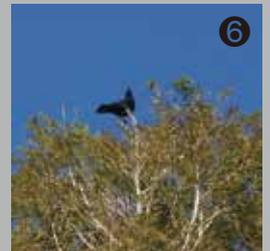
2 杭にとまるカワウの中には繁殖羽の個体もいた



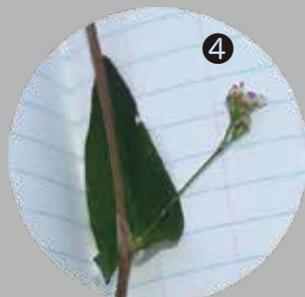
3 遊歩道沿いで咲いていた‘十月桜’



5 エノキの枝を移動していたアオダイショウの幼蛇



6 メタセコイヤのてっぺんで鳴いていたハシブトガラス



4 アキノウナギツカミ

茎に下向きのトゲがあり、「ウナギも掴める」という意味が名の由来と言われているが、由来になるにはトゲがちょっと頼りない！？



11月てがたんの観察生物とルート



花

茎



おいしそうに熟したナンテンの実は果実食の鳥たちに人気はあるのかな？



11 切れ込みのような形をしたオオバンの鼻孔（びこう）



10 ハゼノキの実は水分が少なく脂肪分が多いので、鳥によく食べられる



9 緑とオレンジの翼鏡（よくきょう）が特徴のオナガガモのオス



7 ヨシにつくカイガラムシは小鳥たちにとって、餌が少ない冬の貴重な食料になる

今月の鳥 モズ

(スズメ目モズ科) 全長：約 20cm

日本では全国的に分布し、冬は北海道では多くが南に移動し、本州でも高原で繁殖した個体は、平地に移動します。

昆虫や小型の両生類、爬虫類、鳥類などを食べるが、ハゼやサンショウの実など植物質のものも食べます。

秋の初めは雌雄ともに単独で縄張りを持ちますが、繁殖期になると雄の縄張りに雌が入り、繁殖します。



モズ♂



モズの分布図

分布図の色 留鳥 夏鳥 冬鳥